

様式 C-7-1

平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	32604
研究 代表者	部局	人間生活文化研究所		
	職	所長		
	氏名	大澤 清二		

1. 研究種目名 基盤研究(A)(一般) 2. 課題番号 15H01763

3. 研究課題名 人が生育する限界的環境に於ける発育発達(生活技術の発達を含む)と成熟の総合的研究

4. 研究期間 平成27年度～平成30年度 5. 領域番号・区分 -

## 6. 研究実績の概要

人の発育発達過程の知識は従来欧米と東アジアを中心とする地域、民族に関して蓄積されてきたがこれら以外の人の発育発達の諸相については全く知識の蓄積が無かった。この研究では人の身体発育発達の諸相を人類が狩猟採集時代から現代までに辿ってきた社会の発展段階に添って探求してきた。この手掛りとして Goldschmidtが示した人類発展史モデル「Man's Wayモデル」を作業的な仮説として取り上げ、これに対応させて、人の身体発育発達を解明している。その結果、アンダマン海の漂海民モーケン、タイの森の民ムラブリ、ヒマラヤの高地民ポーティア、シェルバ、ミャンマー最南部の伝統社会に生きるバダウン（カヤン）、上座仏教の僧院に出家した少年僧を継続的に現地調査しつつあり、実査データによって発育発達と生育環境との関係についてこれまでに無い規模でデータ蓄積が進んできた。生育環境・ライフスタイル（食事、衣服、育児の慣習、通過儀礼、人体変工等）形態発育（身長、体重、皮下脂肪厚など人類学的計測項目とそれらによる指数、機能発達項目：FMS(ファインモータースキル)、GMS(グロスモータースキル)42項目（例、鉛筆削り、木登り、閉眼片脚立ち等）、SFL(スキルズ・フォア・ライフ生活技術)28項目（衣服着脱、調理、火おこし、操船等）その他走、跳、投能力、筋力、肺機能、視力、聴力、泳力、書字力等民族の特徴に応じた体力・基礎運動能力等）性成熟項目（初経、精通年齢等5項目）これに関しては一部調査不可が含まれる。いずれにしても、この種の調査としては項目数、測定対象者の数ともに世界最大級のデータセットを蓄積しつつある。またこれまでに収集した3～18歳の発育発達データについて項目毎にそれらの発達状況を集計し、順次、データ解析と解釈を行い、日本発育発達学会などへの報告等論文として逐次公表しており今後も随時公表予定である。

## 7. キーワード

狩猟採集民 身体発育 身体発達 生活技術 限界的環境

## 8. 現在までの進捗状況

区分 (2) おおむね順調に進展している。

理由  
この研究では限界的な環境下で生育しつつある人々の発育発達の諸相をこれまで実態が全く未知であった民族を対象に、困難な調査環境下で実査を行ってきている。

A. アンダマン海を漂海するモーケン、B. 20年前に移動・狩猟採集生活から定住生活に移行したタイのムラブリ、C. 17世紀にチベットから移住した牧畜・農耕民ポーティア、D. ヒマラヤ高地のシェルバ、E. 外部世界から離れたミャンマーのバダウン（カヤン）、F. 上座仏教の少年僧。本年度はC、D、E、Fについてデータ収集、データ入力作業を行った。

調査項目 生育環境（衣食住、育児、人体変工など）：特に、人体変工については世界で始めてバダウンの全装着者の調査を実施し、その美意識、発育にともなう形態的な変化を明らかにした。形態発育（人類学的計測項目）：特筆する知見としてムラブリは「思春期の発育スパートが存在しないことが見出され独特の思春期発育現象がある可能性がある」などの知見が得られている。機能発達項目：FMS・GMSなど運動機能42項目（例、鉛筆削り、木登り、閉眼片脚立ちなど）、SFL28項目（衣服着脱、調理、火おこしなど）：都市部のミャンマー人や日本人と比べるとモーケンやムラブリは著しく一部の身体能力に関して発達が早いことが明らかになっている。基礎運動能力7項目（走、跳、投能力、視力、聴力、泳力、書字力）：これらの結果も限界的な環境下では独特の発達が行われることが明らかになりつつある。性成熟項目（初経、精通）：出家僧などにおいて調査環境が難しく調査不可能の項目もあった。

これまでに収集した3～18歳の発育発達データについて項目ごとにそれらの発達状況を集計しつつある。また順次、データ解析と解釈を行っており、論文として報告準備を進めている。現在この種の調査としては世界最大級のデータセットを蓄積しつつある。

1版

## 9. 今後の研究の推進方策

上記6.8.に記したように、従来全く知られていなかった限界的な環境で生まれ育ってきた人々の発育発達を困難な調査環境下で実査してきた。その結果非常に興味深いデータが順次蓄積されつつある。これまでにバダウン、ムラプリ、モーケンなどに関する数点の論文を公表し、また日本発育発達学会では上記に加えてシェルバ、ポーティアについても報告してきたが、最終年度となる平成30年度はこれまでの蓄積データを体系的に解析用データセットして整え、ミャンマー、タイにおける研究協力者と協議しつつ順次解析し公表する。この過程では欠損情報を現地における調査を行って補填することも予定に入れている。平成30年度末には日本発育発達学会で研究代表者の大澤が会長講演としてこの研究成果を報告するとともに、大妻女子大学博物館と国立民族学博物館の共同開催という形式で「アジアの狩猟採集民の生活と子どもの発育発達」という特別展示を平成31年3月から5月の間開催する予定である。また併せてこの研究成果をまとめた冊子を刊行する予定である。

## 10. 研究発表（平成29年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著論文 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 大澤清二	4. 巻 15
2. 論文標題 アジア諸民族の発育に及ぼす環境生態系の影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子どもと発育発達	6. 最初と最後の頁 254-266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大澤清二、福田友絵	4. 巻 22
2. 論文標題 健康診断の機会を生かし、生活習慣を整える HQCによる健康と体力問題の改善方法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心とからだの健康	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中西純	4. 巻 15
2. 論文標題 カーストと菜食は子どもの発育にどのように影響するか～ネパールの場合～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子どもと発育発達	6. 最初と最後の頁 243-253
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsuko Shimoda and Seiji Ohsawa	4. 巻 27
2. 論文標題 Perception of neck ring wear using SD Method	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Human Culture Studies	6. 最初と最後の頁 638-644
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.9748/hcs.2017.638">https://doi.org/10.9748/hcs.2017.638</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 下田敦子、大澤清二	4. 巻 27
2. 論文標題 カヤン女性の首輪による身体変工の美醜に関する計量的研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人間生活文化研究	6. 最初と最後の頁 610-620
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.9748/hcs.2017.610">https://doi.org/10.9748/hcs.2017.610</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件(うち招待講演 1件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 大澤清二、下田敦子、S.シスコタミット、N.プラディット
2. 発表標題 思春期の発育スパートを認めない狩猟採集民の存在(思春期スパートは人に普遍的に認められる現象ではなさそうである)
3. 学会等名 日本発育発達学会第16回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下田敦子、大澤清二、タンナイン、ジョネイ
2. 発表標題 園芸的村落・部落社会において生存を支える生活技術と身体性の再構築 カレン支族幼児児童の調査データの解析から
3. 学会等名 日本発育発達学会第16回大会
4. 発表年 2018年

1 版

1. 発表者名 Usha Acharya, Jun Nakanishi, Atsuko Shimoda, Seiji Ohsawa
2. 発表標題 Development process of life skills of Nepal Highland residing Sherpa and Bhotiya children: Part 2
3. 学会等名 日本発育発達学会第16回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中西純、アチャヤウシャ、下田敦子、大澤清二
2. 発表標題 肉類を摂取しないカースト（ネパール）の子どもは発育期に何を食べているか
3. 学会等名 日本発育発達学会第16回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二文字屋脩
2. 発表標題 『非在の経験』からの出発：定住民的言語を超えた人類学に向けて
3. 学会等名 第51回日本文化人類学会研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shu NIMONJIYA
2. 発表標題 The Eternal Primitive Society in Northern Thailand: Reproduction of Discourse on the Mlabri Hunter-Gatherers and its Impacts
3. 学会等名 13th International Conference on Thai Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shu NIMONJIYA
2. 発表標題 The Current Status of Hunter-Gatherers in Thailand: A Case of the Mlabri in Northern Thailand
3. 学会等名 the 10th International Convention of Asia Scholars (ICAS10) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中西純
2. 発表標題 ネパール人の子どもの発育-ベジタリアンとノンベジタリアンの比較-
3. 学会等名 日本学校保健学会第64回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中西純
2. 発表標題 1日2食でラクトベジタリアンの子どもの発育
3. 学会等名 日本ベジタリアン学会 第17回(2017年度)大会
4. 発表年 2017年

## 〔図書〕 計1件

1. 著者名 下田敦子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 家政教育社	5. 総ページ数 133
3. 書名 (ミャンマー語版) カヤン女性の身体変工・装飾と価値体系 ミャンマー最深部に於ける2013-2014年生活実態調査より	

1 1. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件(うち出願0件/うち取得0件)

【研究代表者・所属研究機関控】

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

1 版

1 2 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

1 3 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

1 4 . 備考

-